

農林水産大臣賞受賞

ここに日本の原風景がある ～景観と芸術による美しいむらづくり～

こいさごび れっ じきょうぎかい
受賞者 **小砂village協議会**
(なすぐん なかがわまち
栃木県那須郡那珂川町)

■ 地域の沿革と概要

那珂川町は、栃木県の東北東に位置し、町のほぼ中央を那珂川が南北に流れている。

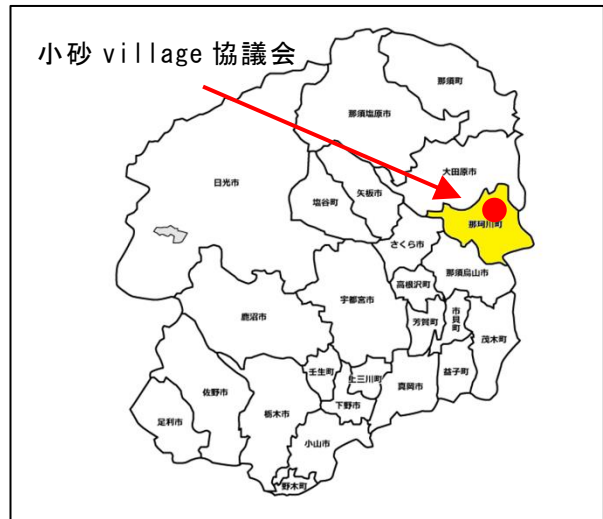
町の総面積は、192.78 km²で、64%が森林で覆われた山村の町である。内陸型気候で年平均気温 13℃前後、年間降水量 1,500mm で、寒暖の差は大きいものの、全体的には温暖で生活しやすい地域である。農業については、水稲が中心で小規模の兼業農家が大半を占めている。また、八溝山地の豊富な森林資源を生かした林業は、古くから「八溝材」の銘柄で知られ、木材の供給地として大きな役割を担ってきた。一方で、この山地には多くの野生鳥獣が生息しており、特にイノシシによる鳥獣被害は問題となっているが、近年ジビエとしての活用も進み「八溝シシマル」として新たな特産品として定着している。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

小砂地区は、八溝山地を水源とする小口川流域の8集落から成り、川沿いに帯状に水田が連なる中山間地域で、約 650 人が生活している。大正末期から昭和初期にかけては、葉たばこの産地として多くの農家

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
地区の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	29.5%
	総世帯数 5,831戸 総農家数 1,718戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 291戸 1種兼業農家 94戸 2種兼業農家 817戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 19,278ha 耕地面積 2,870ha 田 1,930ha 畑 941ha 耕地率 14.9% 農家一戸当たり耕地面積 1.7ha

注：町全体の数値（H27年）

専業別農家数は販売農家の内数のため、総農家数と一致しない

が栽培していたが、たばこ産業の衰退により、それに代わって棚田における水稲栽培を中心としつつ、カキツバタを代表とした花卉・花木の生産など特徴的な経営を行っている農家もいる。また、地域の伝統産業・文化芸術として、幕末期に始まった「小砂焼」や地域のコナラ等の広葉樹で作られ茶の湯で用いられる「菊炭」の生産が行われている。さらに大同元年（806年）に開山された東光寺、大治4年（1,129年）創立された示現神社などの歴史的建造物が点在し、これら歴史と農林業を通じて維持された景観や文化的な資源等を有している地区である。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

小砂地区では、8つの集落で構成されているが、高齢化や過疎化が進むなか、生活を支える商店がなくなり、公共交通機関である路線バスも廃止され、地域には「諦め」にも近い雰囲気生まれつつあった。このような状況の中、フランスに留学し、地方の農村



写真1 小砂地区の棚田

を多く訪れることで人々と関わり、ヨーロッパのホテルにも勤めていた経験のある地区内の方から、「地域の歴史・資源と景観を活かして活性化に取り組んでいるフランスの事例のように、小砂地区でもここにある資源を生かして、地域の活性化が出来ないか」という提案があり、この考えに賛同した小砂地区の住民が中心となり検討し、平成25年（2013年）にNPO法人「日本で最も美しい村」連合への加盟に合わせて、「小砂美しい村協議会」を設立し、「小砂village協議会」の名称で活動している。

(2) むらづくりの推進体制

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

平成25年10月に設立した当協議会には、生活部会、青少年部会、女性部会および高齢者部会等6つの部会があり、それぞれが関連する事業の運営に当たっている。この専門部会は「小砂コミュニティ推進協議会」の各部会が兼ねている。また、「小砂コミュニティ推進協議会」を構成する8集落の班長も「小砂village協議会」の役員として参画しており、両協議会の活動は一体不可分の関係にある。

・名称：小砂 village 協議会

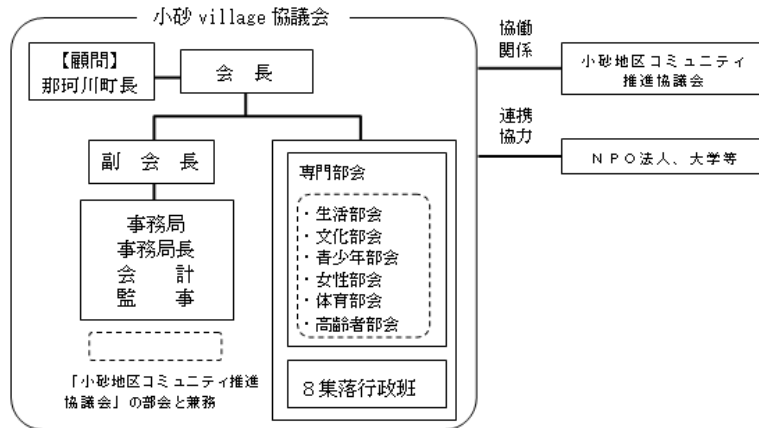
※「小砂美しい村協議会」の会則に基づき、NPO法人「日本で最も美しい村連合」等対外的な行事等で使用することとしている名称

・設立年：平成 25 年 10 月

・役員数：31 名

・会員数：230 戸（180 家族） ※H31 年 4 月時点

第2図 むらづくり推進体制図



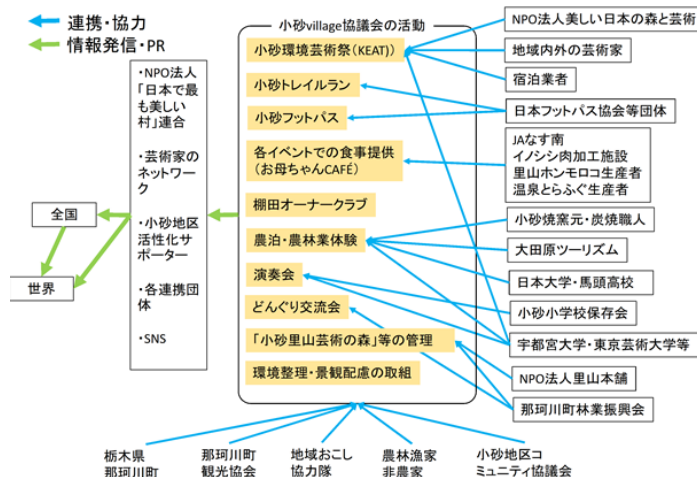
イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

支援：栃木県、那珂川町、那珂川町観光協会、国立大学法人宇都宮大学、学校法人日本大学、県立馬頭高校等

協働：小砂地区コミュニティ協議会、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合、日本フットパス協会、NPO 法人美しい日本の森と芸術、NPO 法人里山本舗、小砂小学校保存会、株式会社大田原ツーリズム、那珂川町林業振興会、小砂焼窯元、菊炭生産者、地域おこし協力隊、農林漁家等

協力：那須南農業協同組合、イノシシ肉加工施設、里山ホンモロコ生産者、温泉とらふく生産者等。

第3図 むらづくり連携図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

小砂地区の美しい風景を活用し、芸術祭、トレイルラン、ポタリングなどのイベントを開催するほか、(株)大田原ツーリズムと連携し、農家民宿を行うことにより多くの学生を受け入れ、都市住民と交流を行っている。

また、「ボランティアでは活動が継続しない!!」をモットーに、収支を考え、組織の継続的な運営を進めている。

2. 農業生産面における特徴

(1) ブランド米の生産・販売

かつては葉たばこ栽培が盛んな地域であったが、現在は水稻を中心とした営農が行われている。そのような地域において、八溝山系から流れ出る清流とホタルの舞う環境のもと棚田等でコシヒカリを主体に栽培されている。「小砂 village 協議会」の活動により、地域に訪れる人が増え、地域の農産物を食する機会が増える中で、地区の農業者が集まり小砂地区のブランドとしてこのお米を生産・販売しようと考え、取り組んでいるのが「小砂ホタル米」である。棚田という条件もあり4t/年(精米)程度の生産量であるが、東京の契約者やイベント等の直売で好評を得ている。なお、このブランド米は、地域の芸術祭で交流が始まったデザイナーによるデザインのラベルで販売されている。



写真2 小砂ホタル米

(2) 地域農産物の消費拡大

小砂 village 協議会の女性組織「おかあちゃん café」は、トレイルラン、クラシックコンサート等のイベント時に地域の農産物を使った食事を提供しており、平成30年度では16回のイベントで食事の提供を行い、地域農産物の知名度の向上や消費拡大に貢献している。

(3) 中山間地域等直接支払制度等の活用による農地・生産基盤等の維持

中山間地域等直接支払制度を活用し、小砂地区内約100haの農地や水路等の共同活動により農地・生産基盤の維持を図っている。また、小砂環境芸術展(祭)の会場となる「みんなの森」、「小砂里山芸術の森」等の地域の山林管理は、栃木県「とちぎの元気な森づくり県民税」を原資に「里

山林整備事業」を積極的に活用し、那珂川町林業振興会の協力のもと雑木林や山林の下草刈りを行っている。この管理により、森の中まで見通しが良くなるなど農地と鳥獣の住処となる山林との間に緩衝帯の役割を果たしており、鳥獣被害の軽減に寄与している。



写真3 里山の管理

(4) 農家の経営改善への貢献

小砂地区の農業者の7割が兼業農家であり、地域外に勤めている住民が多く、農業従事者も高齢化する傾向にあるが、協議会の活動とともに農家民宿が順次開業し、現在、18戸の農家が1,000人/年（H30実績）の受け入れを行っており、農家の経営改善に貢献している。また、新規就農者1名が、地域外から移住し、空き家・農地・山林を購入し環境配慮型の農業を営んでいる。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等

①『芸術』を活用した都市住民との交流

小砂地区の里山景観を最も活かした交流の取組として「小砂環境芸術展 KEA」及び「小砂環境芸術祭 KEAT (Koisago Environmental Art Triennale)」を実施している。「小砂環境芸術展 KEA」は平成24年から始まり、「よるこびの森」



写真4 立木を活用した彫刻

「みんなの森」「小砂里山の芸術の森」

を含めた地区全体を美術館に見立て、様々な芸術作品を展示・鑑賞しながら周遊するアートプロジェクトとして毎年開催し、平成25年の来場者は約4,000人であったが、令和元年には6,000人以上が地域を訪れるまでのイベントに成長している。

②『農業』を活用した都市住民との交流

平成24年からスタートした棚田オーナークラブでは、都市住民を主な対象に、毎年平均10家族30名の参加者を受け入れている。また、学生向けの農業体験では、当協議会が主体となり、隣接地域の(株)大田原ツーリズムと連携し、神奈川県の高校生を受入れ、小砂地区の農家に宿泊しながら、農作業体験、



写真5 棚田オーナークラブ

小砂焼体験、地元県立馬頭高校の生徒と交流するなど、那珂川町や小砂地区の理解を深めている。宿泊者は平成 27 年度の 100 名から平成 30 年度の 1,000 名に増加し、受入側の農家も、6 軒から 18 軒に増加している。

③『景観』を活用した都市住民との交流

小砂地区ならではの景観を活かしたイベントを企画し、「日本で最も美しい村」連合等の情報発信を通じて知名度の向上と集客に繋げている。特に、トレイルラン、フットパス等の周遊型イベントでは、地域の文化財やきれいに整備された花壇、里山に溶け込むように設置された芸術作品、農林業が織りなす里山の景観などの地域資源を存分に楽しんでもらえるコースを設定している。これらの大規模なイベントの運営は町、JA と協働で行い、地域を越えた活性化、交流にもつながっている。



写真 6 小砂トレイルラン

(2) 女性の社会参画及び定住促進

①女性の社会参画

小砂地区の女性は、これまで地域での活動の場が少なかったが、「小砂 village 協議会」が設立され、地域に訪れる人々や芸術家との交流を行う中で、「地域に食事をする店がない」ことに着想し、女性達自ら考え「お母ちゃん café」を立ち上げている。近年は協議会のイベントのみならず、



写真 7 お母ちゃん café

小砂地域外のイベントにも参加し、小砂地域を P R している。広く女性同士の縁を結ぶ機会を得て、その活動は益々活発化し、食品衛生管理者の資格取得等その活動の幅を広げている。「お母ちゃん café」のイベントの参加回数・参加者数は、平成 26 年度の 5 回・46 名から平成 30 年度の 16 回・247 名に増加し、女性の活躍が顕著に表れている。

②地域への定住促進

「小砂 village 協議会」の取組が始まり、新規就農者が 1 名移住しており、空き家と農地・山林を購入し、環境に配慮した農業を営んでいる。

また、小砂地区の里山の環境を整備し、「小砂環境芸術展 KEA」を展開することにより、芸術家の移住が増えており、7 家族 15 名が移住している。移住した芸術家は、創作活動を行いながら、当協議会の会員として、地域づくりの活動に参加している。